

第23回 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 議事要旨

- ◆日時 令和8年5月18日（月）13時35分～15時00分
- ◆会場 南あわじ市役所3階304・305会議室
- ◆出席者 委員：8名
松坂委員（委員長）、福岡委員（副委員長）、飛田委員、釜井委員、鈴木委員、
金沢委員、三上委員、草地委員
事務局：5名
企画政策監、企画部長、ふるさと創生課長、ふるさと創生課係長、ふるさと創
生課課員
傍聴者：1名

◆会議の概要

1. 開 会

委員長あいさつ

2. 協議事項

(1) 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略人口ビジョン案について

事務局から南あわじ市人口ビジョン案についての説明。

【委員の主な質問・意見・評価】

- (委員) 人口移動の状況について、10代後半～20代前半の人が転出超過になっているが、
出生数自体が減少しているのので、人数ではなく比率で表現する方がいいのでは。
(事務局) 人数がわかっているので、比率を出すことも可能。後日提示できるよう検討する。
- (委員) 出生数が100人台になってきたとき、子どもの減少が原因で増減幅が縮小されて
いるのに、施策が原因で縮小されたように感じてしまうのではないか。比率で見
た方が実際の効果がわかるのではないかと感じた。
- (委員) 今後人口減少により、税込減等が考えられるがインフラ等の様々な施策を展開し
ていくにも限界があるので、将来人口を低く見積もった現実的な数字、あるいは
減る比率を設定（縮減するような）し、施策を考えていく方がいいのでは。
- (事務局) 趨勢人口よりも将来人口を増やすための施策を考えていくのが総合計画の目的と
考えている。前回示した出生率2.06は不可能であるので、直近の実績値である
1.83になるべく近づけるよう、子育て、教育の施策を考えこの数値を目指してい
く。現実的かつ、ある程度高い水準の目標で施策を展開したい。適正値の答えは
ないが、目指せそうな数値で設定している。具体的な施策立案はこれからなので、
この数値をもって、各課に指示していく予定。

(委員長) モチベーションをあげるために大きな目標を設定している。ヨーロッパでは移民受け入れによる人口増の話もあるが、日本では難しいだろう。晩婚化を抑えるための基盤を作るなど、全体的に危機感を持って行動すべき。国を守っていく、文化を繋いでいくことを考えたときに日本ではそのような考え方が大事という認識が必要になってくる。若者が自ら考えていく基盤づくりが大事。近所と一緒にあって一次産業に後継者を作って、家を継いでいくというような考えができれば、自然と人口も増えていく。

(委員) 自治会、消防団、祭礼等の負担の大きさを懸念する若者が増えている。小さい地域では、年齢上限がないところもあり、負担に感じている声も多い。自治会等の加入を回避するために、マンションや分譲を選ぶ人も増えているが、このような問題について市はどう思っているのか。

(事務局) 子どものころから地域活動に携わることで、郷土愛や地域への関心を持ってもらう。南あわじ市を出た後も、将来的に帰りたいと思ってもらえるような施策を考える。行政も地域の人と人とのつながりで成り立っている。

(委員) 地域維持のために必要な仕事だとわかっているが、年齢上限がないので、いつまでたっても辞められないのが難しい。核家族が増えていく中で、地域愛だけではどうにもならない問題も多い。

(委員長) 連合自治会から補助金をもらって、イベント等をして若者は一時的に集まるが、自治会に入ってもらえるわけではない。昔、消防団を立ち上げの際も声をかけて消防団の活動を見て若い人も加入してくれるようになった。人間関係の輪を広げて、活動を継続していくことが大事。

(委員) 移動均衡について20代後半～40代後半の女性のみ+5人で見込んでいるのはなぜか。15～64歳の生産年齢人口の転入で全体をプラスマイナスゼロで考えてみては。生産年齢人口に着目することが大事と思う。

(事務局) 子育てを希望する世代の増を見込んでいる。若年層(15～24歳)は転出を許容しているので、25～64歳の生産年齢人口で転入超過させ全体で移動均衡させるシミュレーションを考え、委員長に相談し書面で報告する。

⇒南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略人口ビジョン案について同意いただいた。

(2) 委員任期について

事務局から委員任期についての説明。

⇒委員の任期延長について同意いただいた。

3. その他

4. 閉 会

副委員長あいさつ